特定非営利活動法人エス・エス・エス定款

第１章　　総　　則

（名　称）

第１条　　この法人は、特定非営利活動法人エス・エス・エスという。

（事務所）

第２条　　この法人は、主たる事務所を東京都台東区東上野３丁目３６番８号２階に置く。

（目　的）

第３条　　この法人は、国内外の貧困問題の解決に向けた種々の活動・事業、及び社会福祉事業に関する教育訓練を行い、社会に貢献することを目的とする。

（特定非営利活動の種類）

第４条　　この法人は、前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

（１）　保健、医療又は福祉の増進を図る活動

（２）　職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動

（３）　国際協力の活動

（４）　社会教育の推進を図る活動

（５）　前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

（事業の種類）

第５条　　この法人は、第３条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として、次の事業を行う。

（１）　生活困窮者のための入居施設の開設・運営管理および対象者の生活の安定や自立をサポートする種々の支援事業およびこれらを行う団体・組織・企業等を支援する事業

（２）　福祉に関する相談援助事業

（３）　児童福祉法に基づく児童自立生活援助事業

（４）　社会福祉事業に関する教育訓練事業

（５）　その他この法人の目的を達成するために必要な事業

２　この法人は、次のその他の事業を行う。

（１）職業紹介事業

３　前項に掲げる事業は、第１項に掲げる事業に支障がない限り行うものとし、その利益は、第１項に掲げる事業に充てるものとする。

第２章　　会　　員

（種　別）

第６条　　この法人の会員は、次の３種とし、正会員をもって特定非営利活動法（以下「法」という。）上の社員とする。

（１）正会員　　この法人の目的に賛同して入会し、活動を推進する個人及び団体。

（２）準会員　　この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体。

（３）賛助会員　この法人の事業を賛助するために入会する個人及び団体。

（入　会）

第７条　　会員の入会について、特に条件は定めない。

２　会員として入会しようとする者は、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとする。

３　理事長は、前項の申し込みがあったとき、その者がこの法人の目的に賛同すると認めるときは、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

４　理事長は、第２項のものの入会を認めないときは、速やかに理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

（入会金及び会費）

第８条　　会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

（会員の資格の喪失）

第９条　　会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

（１）退会届の提出をしたとき。

（２）本人が死亡し、若しくは失踪宣告を受け、又は正会員である団体が消滅したとき。

（３）継続して１年以上会費を滞納したとき。

（４）除名されたとき。

（退　会）

第 10 条　　会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

（除　名）

第 11 条　　会員が次の各号の一に該当する場合には、総会の議決により、これを除名することができる。

（１）この定款等に違反したとき。

（２）この法人の名誉を傷つけ、また目的に反する行為をしたとき。

２　前項の規定により会員を除名しようとする場合は、議決の前に当該会員に弁明の機会を与えなければならない。

（入会金及び会費の不返還）
第 12 条　　既に納入した入会金、会費は、返還しない。

第 3 章　　役　　員

（種別及び定数）
第 13 条　　この法人に、次の役員を置く。
（1）理事３人以上１０人以下　　（2）監事１人以上
2　理事のうち１人を理事長とする。

（選任等）
第 14 条　　理事は、理事会において選任し、総会に報告する。
2　理事長は、理事の互選とする。
3　役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは三親等以内の親族が１人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び三親等以内の親族が役員の総数の３分の１を超えて含まれることになってはならない。
4　法第 20 条各号のいずれかに該当する者は、この法人の役員になることができない。
5　監事は、総会で選任する。
6　監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

（職　務）
第 15 条　　理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。
2　理事長に事故があるとき又は理事長が欠けたときには、理事長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。
3　理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
4　監事は、次に揚げる職務を行う。
（1）理事の業務執行の状況を監査すること。
（2）この法人の財産の状況を監査すること。
（3）前２号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
（4）前号の報告をするために必要がある場合には、総会を招集すること。
（5）理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について理事に意見をのべること。

（任期等）
第 16 条　　役員の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。
2　補欠のため、又は増員により就任した役員の任期は、それぞれの前任者又

は現任者の任期の残存期間とする。

3　役員は、辞任又は任期満了においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

（欠員補充）

第 17 条　理事又は監事のうち、その定数の３分の１を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

（解　任）

第 18 条　役員が次の各号の一に該当する場合には、理事は理事会において理事総数の３分の２以上の議決により、監事は総会において出席者総数の３分の２以上の議決により、これを解任することができる。

（１）心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。

（２）職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

2　前項の規定により役員を解任しようとする場合は、議決の前に当該役員に弁明の機会を与えなければならない。

（報酬等）

第 19 条　役員は、その総数の３分の１以下の範囲以内で報酬をうけることができる。

2　役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3　前２項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

第　4　章　会　　議

（種　別）

第 20 条　この法人の会議は、総会及び理事会の２種とする。

2　総会は通常総会及び臨時総会とする。

（総会の構成）

第 21 条　総会は、正会員をもって構成する。

（総会の権能）

第 22 条　総会は、以下の事項について議決する。

（１）定款の変更

（２）解散

（３）合併

（４）会員の除名

（５）事業報告及び決算

（６）監事の選任又は解任、役員の職務及び報酬

（７）入会金及び会費の額

（８）解散時の残余財産の帰属

（９）その他運営に関する重要事項

（総会の開催）

第23条　通常総会は、毎年１回開催する。

２　臨時総会は、次に揚げる場合に開催する。

（１）理事長が必要と認め、招集の請求をしたとき。

（２）正会員総数の５分の１以上から会議の目的を記載した書面により招集の請求があったとき。

（３）監事が第15条第４項第４号の規定に基づいて招集するとき。

（総会の招集）

第24条　総会は、前条第２項第３号の場合を除いて、理事長が招集する。

２　理事長は、前条第２項第１号及び第２号の規定による請求があったときは、その日から１４日以内に臨時総会を招集しなければならない。

３　総会を招集する場合には、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面により、開催の日の少なくとも５日前までに通知しなければならない。

（総会の議長）

第25条　総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する。

（総会の定足数）

第26条　総会は、正会員総数の２分の１以上の出席がなければ開会することはできない。

（総会の議決）

第27条　総会における議決事項は、第24条第３項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

２　総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（総会での表決権等）

第28条　各正会員の表決権は平等なものとする。

２　やむを得ない理由により総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

３　前項の規定により表決した正会員は、前２条の規定の適用については出席したものとみなす。

４　総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

（総会の議事録）

第29条　総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

（１）日時及び場所

（２）正会員総数及び出席数（書面表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）

（３）審議事項
（４）議事の経過の概要及び議決の結果
（５）議事録署名人の選任に関する事項

２　議事録には、議長及び総会において選任された議事録署名人２名が、記名押印又は署名しなくてはならない。

（理事会の構成）

第30条　　理事会は、理事をもって構成する。

（理事会の権能）

第31条　　理事会は、この定款に別に定める事項のほか、次の事項を議決する。

（１）総会に付議すべき事項
（２）総会の議決した事項の執行に関する事項
（３）その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

（理事会の開催）

第32条　　理事会は、次に掲げる場合に開催する。

（１）理事長が必要と認めたとき。
（２）理事総数の３分の２以上から理事会の目的である事項を記した書面により招集の請求があったとき。

（理事会の招集）

第33条　　理事会は、理事長が招集する。

２　理事長は、前条第２号の場合にはその日から１４日以内に理事会を招集しなければならない。

３　理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面により、開催日の少なくとも５日前までに通知しなければならない。

（理事会の議長）

第34条　　理事会の議長は、理事長がこれにあたる。

（理事会の定足数）

第35条　　理事会は、理事総数の２分の１以上の出席がなければ開会することができない。

（理事会の議決）

第36条　　理事会における議決事項は、第33条第３項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

２　理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数の場合には、議長の決するところによる。

（理事長の表決権等）

第37条　　各理事の表決権は、平等なものとする。

2　やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。
3　前項の規定により表決した理事は、前条及び次条第１項の適用については、理事会に出席したものとみなす。
4　理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

（利益相反取引）
第 38 条　理事は、次に掲げる場合には、理事会において、当該取引につき重要な事実を開示し、その承認を受けなければならない。
（１）理事が自己又は第三者のためにこの法人と取引しようとするとき。
（２）この法人が理事の債務を保証すること、その他理事以外の者との間において、この法人と当該理事との利益が相反する取引をしようとするとき。

（理事会の議事録）
第 39 条　理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
（１）日時及び場所
（２）理事総数、出席者数及び出席者指名（書面表決者にあたっては、その旨を付記すること。）
（３）審議事項
（４）議事の経過の概要及び議決の結果
（５）議事録署名人の選任に関する事項
2　議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人２名以上が記名押印又は署名しなければならない。

第　５　章　　資　　産

（構　成）
第 40 条　この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。
（１）設立当初の財産目録に記載された資産
（２）入会金及び会費
（３）寄付金品
（４）財産から生じる収益
（５）事業に伴う収益
（６）その他の収益

（区　分）
第 41 条　この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産、その他の事業に関する資産の２種とする。

（管　理）
第 42 条　この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、理事会の議決を経て、理事長が別にさだめる。

第 6 章　会　計

（会計の原則）
第 43 条　この法人の会計は、法第 27 条各号に掲げられる原則に従って行わなければならない。

（会計区分）
第 44 条　この法人の会計は、次のとおりとする。
（１）特定非営利活動に係る事業会計
（２）その他の事業会計

（事業年度）
第 45 条　この法人の事業年度は、毎年９月１日に始まり、翌年８月３１日に終わる。

（事業計画及び予算）
第 46 条　この法人の事業計画及びこれに伴う予算は、毎事業年度ごとに理事長が作成し、理事会の議決を経て、総会に報告する。

（暫定予算）
第 47 条　前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。
２　前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

（予算の追加及び更正）
第 48 条　予算成立後にやむを得ない事由が生じたときは、理事会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

（事業報告及び決算）
第 49 条　この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等決算に関する書類は、毎事業年度後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。
２　決算上余剰金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

（臨機の措置）
第 50 条　予算を持って定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、

又は権利の放棄をしようとするときは、理事会の議決を経なければならない。

第　7　章　　定款の変更、解散及び合併

（定款の変更）

第 51 条　この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の４分の３以上の多数による議決を経て、かつ、法第 25 条第３項に規定する事項については所轄庁の認証を得なければならない。

２　この法人の定款を変更（前項の規定により所轄庁の認証を得なければならない事項を除く。）したときは、所轄庁に届け出なければならない。

（解　散）

第 52 条　この法人は、次に掲げる事由により解散する。

（１）総会の決議

（２）目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能

（３）正会員の欠亡

（４）合併

（５）破産手続開始の決定

（６）所轄庁による設立の認証の取消し

２　前項第１号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の４分の３以上の議決を経なければならない。

３　第１項第２号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

（残余財産の帰属）

第 53 条　この法人が解散（合併又は破産手続開始の決定による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第 11 条３項に規定する法人の中から、総会において議決したものに譲渡するものとする。

（合　併）

第 54 条　この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の４分の３以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第　8　章　　公 告 の 方 法

（公告の方法）

第 55 条　この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第 28 条の２第１項に規定する貸借対照表の公告については、この法人の主たる事務所の掲示場に掲示して行う。

第 9 章　事務局

（事務局の設置）

第 56 条　この法人に、この法人の事務を処理するため、事務局を設置する。

2　事務局には、事務局長及び必要な職員を置く。

（職員の任免）

第 57 条　事務局長及び職員の任免は、理事長が行う。

（組織及び運営）

第 58 条　事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

第 10 章　雑　則

（細　則）

第 59 条　この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

＜附　則＞

1　この定款は、この法人の成立の日から施行する。

2　この法人の設立当初の役員は、別表のとおりとする。

3　この法人の設立当初の役員の任期は、第 16 条第１項の規定にかかわらず、この法人の成立の日から平成１３年１２月３１日までとする。

4　この法人の設立当初の事業年度は、第 45 条の規定にかかわらず、この法人の成立の日から平成１２年１２月３１日までとする。

5　この法人の設立当初の事業計画及び収支予算は、第 46 条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによる。

6　この法人の設立当初の入会金及び会費は、第８条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

（１）入会金　　０円

（２）年会費　　０円

7　第 45 条の規定に関わらず、令和３年 11 月１日から始まる令和３年度の事業年度は令和４年８月３１日までとする。

別表　　役　員

役　職　名	氏　名
理事長	高　橋　信　一
副理事長	比　嘉　秀　吉
副理事長	福　間　　仁
副理事長	柳　沢　康　明
理事	高　安　哲　郎
理事	上　田　一　郎
理事	山　本　陽太郎
理事	柳　沢　節　子
理事	鈴　木　啓　子
理事	伊　藤　　緑
理事	大曽根　千　絵
理事	比　嘉　壽々代
理事	内　野　雄　介
理事	増　田　浩　秀
理事	川　田　一　夫
理事	臼　井　大　悟
監事	福　間　　等